

令和3年(三)第449号 老朽美浜3号機運転禁止仮処分申立事件
 債権者 石地優ほか8名
 債務者 関西電力株式会社

証拠説明書(甲号証)

2021.11.25

債権者ら訴訟代理人弁護士 井戸謙一



番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
84		中間報告(概要)	東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会	H23.12.26	写し	福島第一原発事故では、1号機の水位計が機能していなかったことが重大な結果を招いたこと
85		福島第一原発事故7つの謎	NHKスペシャル「メルトダウン」取材班	2015.1.20	写し	福島第一原発1号機の水位計が機能していないことに気づくのに遅れたことが事故拡大防止の失敗に重大な役割を果たしたこと
86		関西電力株式会社美浜発電所の敷地内破砕帯の評価について<案>	原子力安全委員会美浜発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合	2015/7/2	写し	美浜原発敷地内破砕帯についての有識者会合の最終的な考えかた
87		美浜発電所敷地内破砕帯の調査に関する有識者会合(第4回評価会合)議事録	原子力規制委員会	2015.4.6	写し	有識者会合においては、本件原発敷地内破砕帯が後期更新世に活動した証拠も、活動していない証拠もともに存在しないと認識されていたこと
88		発電用軽水型原子炉施設の地震及び津波に関わる新安全設計基準(前回からの修正版)【骨子素案】	原子力規制委員会	H25.1.22	写し	発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準検討チーム第7回会合(平成25年1月22日開催)において、原子力規制委員会から示された骨子素案の内容。本件特別考慮が必要な活断層について、「敷地内に活断層の露頭がある等」という例示が消えていること
89		発電用軽水型原子炉施設の地震・津波に関わる新安全設計基準に関する検討チーム第6回会合議事録	原子力規制委員会	H25.1.15	写し	検討チーム第6回会合において、骨子素案について釜江教授が異論を述べられたこと
90		2016年熊本地震は異例ではない一大局的に活動の意味を考える(岩波「科学」2016年6月号所収)	石橋克彦(神戸大学名誉教授)	2016.6月	写し	地震による激しい揺れに立て続けに見舞われたことは熊本地震の前にも何度もあったこと。大地震が起こるとその震源域で余震が起こるが、余震域から離れた場所で「誘発地震」が起こることがあること、その原因は本震のがもたらす応力の変化であること
91		慶長伏見地震	ウィキペディア	2021.11.9現在	写し	慶長伏見地震の規模、その4日前に慶長伊予地震が、その前日に慶長豊後地震が起こっていたこと
92		陸羽地震	ウィキペディア	2021.11.9現在	写し	陸羽地震の規模、発生日

番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
93		秋田仙北地震	ウィキペディア	2021.11.9現在	写し	秋田仙北地震の発生日
94		大地震後の地震活動(余震等)について	気象庁	2021.11.9現在	写し	気象庁は、そのホームページにおいて、「最初の大きな地震に続いて、その規模を超える大きな地震が発生するか否かは、現在の科学技術のレベルでは予測できません。」と明記していること
95		繰り返し地震に対する安全性を確保していない耐震基準	滝谷紘一	2016.10.24	写し	現在の新規制基準では、原子力発電所が基準地震動クラスの地震に連続して襲われれば、安全性を確保できないこと
96		海域における活断層調査～現状と課題～	岡村行信	2008.1.27	写し	海域における活断層調査の手法
97	1	総合地質調査株式会社のホームページ	総合地質調査株式会社	2016.5.11	写し	海上音波探査の手法
	2	表8-2 海洋土木調査で使用される代表的な音波探査装置	総合地質調査株式会社	2016.5.11	写し	代表的な音波探査装置の性能
98		平成26年度原子力規制委員会第8回会議議事録	原子力規制委員会	H26.5.21	写し	被告が若狭湾沿岸の地震発生層の上端を4kmから3kmに変更した理由
99		「JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」の概要」	日本電気協会・原子力規格委員会・構造分科会	H20.11.11	写し	原子炉容器に関する中性子照射による脆化予測法が、照射によるマイクロ組織変化を反応速度式により定式化して行うものであること等。
100		雑誌「原子炉圧力容器鋼の中性子照射脆化と健全性評価」	一般財団法人電力中央研究所	H25.3	写し	照射脆化に関する健全性評価では、応力拡大係数と破壊靱性値の2つを適切に評価し、想定されるいかなる条件下においても進展力が抵抗力を上回らないことを示すことによって圧力容器の安全性が判断されていること。
101		雑誌「科学Vol.84」(抜粋) 『続 原子炉圧力容器の脆化予測は破綻している』(152～162頁)	小岩昌宏	H26.2	写し	① 原子炉容器に関する中性子照射による脆化予測法における、中性子照射による硬化量と遷移温度上昇の関係の導かれ方。 ② JEAC4201で採用されている予測式に関し、「固溶限を超えるCuの量の二乗と拡散係数の積として記述される」とすべきであること等。 ③ 小岩昌宏氏が、JEAC4201で採用されている予測式に関して理論的な不備を指摘するため、日本電気協会へ意見書を提出したり、異議の申立てを行ったりしたこと。 ④ JEAC4201で採用されている予測式に関する論文の口頭発表が行われた第24回ASTMシンポジウムを主催した主宰者が、小岩氏らのLetter to Editorを受け、当該論文の購入者に対して予測式への疑問提起が当然である旨のコメントを送付するなどの対応をとっていること。
102		雑誌「金属Vol.86 No.6」(抜粋) 『特別寄稿 原理力規制庁の技術評価は信頼できるか？圧力容器の照射脆化予測法をめぐって』(1～7頁)	小岩昌宏	H28.6	写し	① JEAC4201で採用されている予測式が、次元一致の原則に反すること。 ② 小岩昌宏氏から、JEAC4201の予測式等についての問題点を指摘する意見が提出され、それを受けた原子力規制委員会において規制委員会においては小岩昌宏氏らの主張・指摘を肯定的に受け止めた発言が多く聞かれたこと等。
103		「中性子照射脆化に係る関連温度予測手法の規制における位置付けと課題」	原子力規制庁	H27.1.26	写し	JEAC4201で採用されている予測式の理論的な不備につき、原子力規制委員会において議論が行われたが、結論を出すことができなかったこと。

番号	枝番	標目	作成者	作成年月日	原本・写しの別	立証事項
104		雑誌「金属Vol.83 No.2」 (抜粋) 『原発の経年劣化—中性子照射脆化を中心に—(前編)』(49～56頁)	井野博満	H25.2	写し	JEAC4201で採用されている予測式に関する論文の共著者の1人である石野葉氏が、同予測式につき、反応速度が拡散係数の2乗に比例するとしたことについて、「菅根田君の「勇み足」だった」と発言したこと。
105		雑誌「科学Vol.86 No.5」 (抜粋) 『経年劣化した高浜原発1号機は40年で廃炉すべきだ—信頼性の低い日本電気協会の破壊靱性評価法』(483～492頁)	井野博満	H28.5	写し	① JEAC4206の破壊靱性曲線が前提としてきた $\Delta TK1C = \Delta RTNDT$ の仮定が成り立たないこと。 ② 破壊靱性曲線は測定された破壊靱性値の下限を包絡するように決められるところ、現状、測定値が少なすぎるため、将来にわたる測定値に対して下限包絡線となっているとはいえないこと。 ③ 高浜1号機に関する「高経年化技術評価書(30年目)」と「高経年化技術評価書(40年目)」とを比較すると、破壊靱性値において約5分の1、脆性遷移温度において約3分の1の差まで余裕が減少していること。 ④ 1980年代半ば以降に運転開始をした原子力発電所では鋼材中の鋼の含有量は0.1%以下に抑えられているところ、高浜1号機圧力容器の鋼含有量が0.16%であると報告されていること。
106		雑誌「金属Vol.83 No.3」 (抜粋) 『原発の経年劣化—中性子照射脆化を中心に—(中編)』(45～54頁)	井野博満	H25.3	写し	玄海1号炉において、九州電力が行った解析が安全側の評価とはなっておらず、KI曲線の評価が妥当とはいえないこと等。
107		雑誌「原子力資料情報室通信 No.514」 (抜粋) 『原子炉圧力容器の中性子照射脆化—今までわかったことの総括』(11～18頁)	井野博満	H29.4.1	写し	① 高浜1号機の圧力容器の健全性評価が脆性遷移温度の上昇予測と破壊靱性評価によって判断されていること。 ② 上記健全性評価における脆性遷移温度の上昇予測に関して、高浜1号機につき、たった1回のデータが追加されたことで脆性遷移温度が約22℃も上昇したこと。 ③ 上記健全性評価における破壊靱性評価につき、「高経年化技術評価書(40年目)」の破壊靱性曲線が、「高経年化技術評価書(30年目)」のものに比べて大きく右方向ヘシフトしたため、PTS曲線に大きく接近したこと。